

只見線利活用計画【概要版】

【計画期間：令和5（2023）年度～令和9（2027）年度】

<計画の目的と位置づけ>

只見線の更なる利活用の推進と、鉄道を活かした沿線地域の活性化を図るための方向性や重点プロジェクト、施策メニューを位置付け、県、沿線自治体、JR、および沿線地域の事業者や住民が連携して取り組むための行動指針。

第1章 只見線と沿線地域の概要

只見線：平成23年7月に発生した新潟・福島豪雨で甚大な被害を受け、会津川口～只見駅間は長らく不通の状況が続いていたが、上下分離方式により鉄道で復旧することが決定し、令和4年10月に全線運転再開を果たす。
沿線地域：人口減少と高齢化の進行による消費の減少など、地域の活力の低下が懸念されており、まさに、今が地域の存続を左右する重要な転換期となっている。

第2章 計画の方向性

目指すべき姿	只見線が地域の暮らしや文化、産業を支え輝かせる 日本一の「地方創生路線」
基本方針	只見線の「価値」を地方創生（住みたい、住み続けられるまち）に活かす・つなげる

<只見線の5つの価値>

- ① 生活を支える交通ネットワークとしての価値【交通】**
→（目標）奥会津地域の住民が年に1回以上只見線を利用する
- ② 交流人口を呼び込む観光資源としての価値【交流人口】**
→（目標）只見線沿線地域を訪れる観光客入込数が年間620万人以上
- ③ 地域の象徴、誇らしさ、拠り所としての価値【象徴】**
→（目標）奥会津地域の住民の8割以上の人が見見線を地域のシンボルとして認識している
- ④ 関係人口を生む地域資源としての価値【関係人口】**
→（目標）「只見線に関する事業」に用途を指定したふるさと納税件数年1,500件以上
- ⑤ 交通以外で日々の暮らしに役立つ価値【暮らし】**
→（目標）新たな只見線の活用方法の実現件数延べ5件以上

第4章 計画の推進体制と進め方

只見線利活用推進協議会の中に分野別部会を設け、各部会がそれぞれのテーマの中で施策を具体化し、地域間および官民の連携のもとで、取組を推進できるようにする。

只見線利活用推進協議会

【**構成員**】 福島県、沿線市町、奥会津振興センター等商工・観光関係団体
 【**オブザーバー**】 国土交通省東北運輸局、東日本旅客鉄道株式会社東北本部、会津乗合自動車株式会社、道の駅 等

<分野別部会> それぞれのテーマの中で施策を具体化し、取組内容を検討・実施していく実働組織



第3章 重点プロジェクトと施策メニュー

【只見線の5つの価値】を「維持」「向上」「創出」するために、以下に示す10の重点プロジェクトを実行する。

■10の重点プロジェクト

		只見線の5つの価値				
		交通	交流人口	象徴	関係人口	暮らし
1	目指せ海の五能線、山の只見線プロジェクト 会津地域ならではの企画列車を運行し、将来的にはJR五能線リゾートしらかみのような、只見線オリジナルの観光列車の定期運行を目指す。		●	・	・	
2	奥会津景観整備プロジェクト 奥会津の風景を阻害している杉や雑木を伐採し、車窓や沿線のビューポイントを創出する。また、駅や線路沿いの美化活動を推進する。		●	・	・	
3	只見線学習列車プロジェクト 既存の教育プログラム等とも連携し、駅や列車内、沿線地域で環境教育や体験学習等を提供することで、活かした知識の習得と郷土愛の心を育む。	・	●	●	・	
4	インバウンド誘客再加速化プロジェクト 台湾等の東アジアをターゲットとしたプロモーションを積極的に展開するとともに、沿線地域の受入体制を強化する。		●	・	・	
5	只見線を介した関係人口創出プロジェクト 只見線の存在を関係人口の創出につなげていくため、大学生等との交流活動の展開や只見線応援団が活躍できる場を創出・拡大する。					●
6	みんなの只見線プロジェクト～只見線に乗って～ 地域の機運を高め、マイレール意識を醸成することで、只見線の利用促進を図るとともに、来訪者へのおもてなしの心を醸成する。	●		●		
7	只見線産業育成プロジェクト ガイドの育成や商品開発など、只見線を活用しながら、地域ならではの産業を育成することで、住民が活躍できる場を創出する。			●	・	●
8	只見線二次交通整備プロジェクト 周遊バスやレンタサイクル、レンタカー等の二次交通の整備により、生活利用、観光利用の両面で只見線の利用促進を図る。	●	●			
9	只見線の新たな価値創造プロジェクト～幸せを運ぶ只見線～ 只見線のポテンシャルを最大限に活用し、生活の利便性や暮らしやすさの向上につながるような、新たな只見線の活用方法を検討・試行する。			・	・	●
10	只見線魅力発信プロジェクト 只見線のプロモーションを強化し、ウェブページやSNS、テレビなど、様々な媒体により地域の魅力を発信する。		●	●	●	